

# ～久那川の生物調査～

水産科 3年 鈴木健之 益子卓 山崎十夢

## I. はじめに

私たちは去年、矢又川の堰にはどのような生物が生息しているのかについて調べました。その結果、カワムツ、ナマズ、ドジョウなどの生物が見られました。昨年は矢又川など多くの河川について調べてきたので、今年はまだ調べきれていない矢又川と同じ武茂川水系である久那川に焦点をあて生息している生物について調べようと考えました。

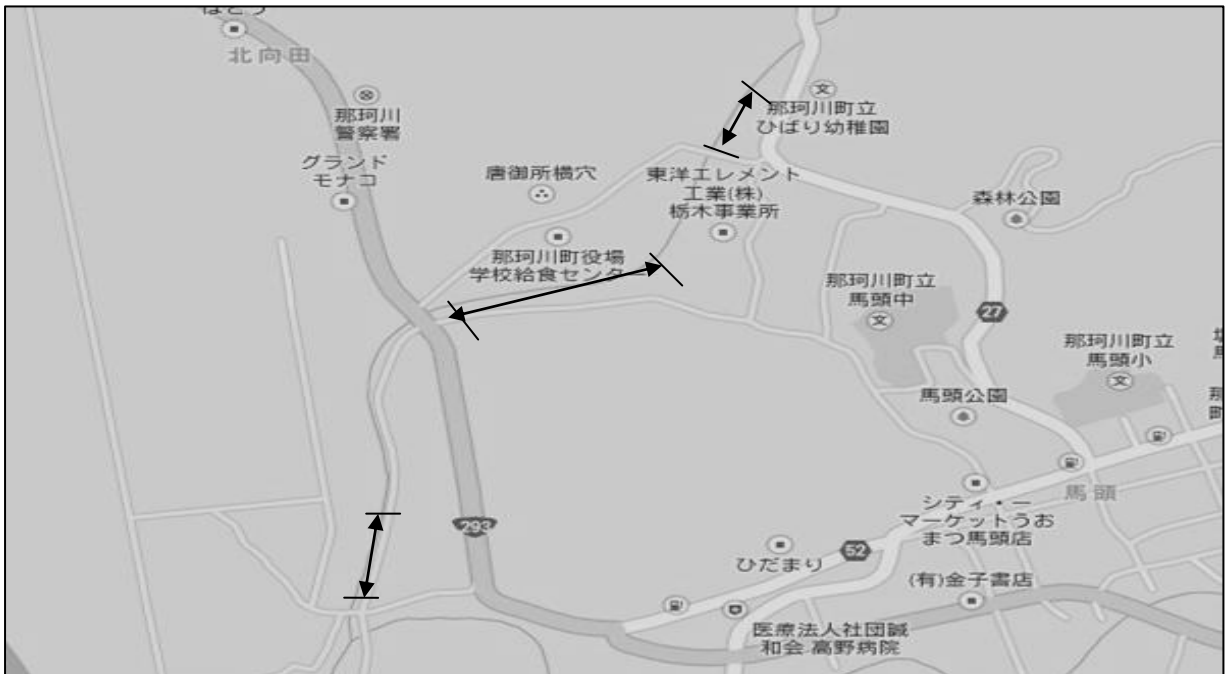
## II. 用意するものと方法

### (1) 用意するもの

網・笊・バケツ・胴長・カメラ

### (2) 調査方法

私たちは武茂川を調査対象にしました。武茂川に注ぐ矢又川、久那川を中心に調査し、どのような生物が生息しているのかを調べました。調査ポイントの詳細は以下の表のようになります。



調査地点：上記の三か所

調査する方法としては網、笊の製作（下の写真）を行い網で追い込み作戦を行うことに

加え、罎を設置して生物を捕獲する方法をとりました。なまはげ追い込み作戦という田中先生の案がありましたが、網を使い個々での捕獲に専念するあまり、ほとんど実行しませんでした。



写真：網の製作



写真：罎の製作

### Ⅲ. 結果

今回の調査では、網で追い込み作戦を行うことに加え、罎を設置して生物を捕獲する方法をとりました。そして多くの生物を捕獲することができました。その結果を表にまとめました。

採取結果は以下のようになります。

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
カワムツ	25	18	20	75	46
アブラハヤ	10	5	2	36	23
フナ				2	3
縞ドジョウ				1	
アメリカザリガニ	4			6	2

表1：網での捕獲数

	1回	2回
カワムツ	1	1
アブラハヤ		1
アメリカザリガニ	8	

表2：罎での捕獲数

この2つの表からカワムツ、アブラハヤ、フナ、縞ドジョウ、アメリカザリガニが採取

できたことがわかります。

#### IV. 考察

結果からわかることは、カワムツが圧倒的に多く採れていることです。このようにカワムツが異常に繁殖していることで、オイカワやアブラハヤなどの他の魚種が減少していることが考えられます。

#### V. まとめ

矢又川と久那川では堰が多いため生息している生物の種類がほとんど同じであることがわかりました。武茂川では堰の影響があまりなく魚の種類が豊富でした。堰は魚にあたえる影響があるとわかりました。

矢又川と久那川は、カワムツが多く捕れ、武茂川ではカワムツ以外にオイカワやアブラハヤなど捕れました。

今後は、後輩にこの研究を受け継いでもらい、より深く追及して行ってほしいです。  
※田中先生の案の「なまはげ追い込み作戦」も実行してほしいです。

下の写真はや捕獲の様子です。

